

V-airで新時代のラジオを体感せよ。
時代とともに進化する、その先へ



8



4



5



2



6



7



3



1

1 局内にあるラジオの収録スタジオ。日々ここから楽しいトークが繰り広げられて発信されている 2 3 エフエム山陰で働くメンバー。「いつもみんなで真剣に楽しいことを考えています！」 4 5 山陰広告賞2024全部門の中で準グランプリをはじめ3つの賞を受賞。広告主でもある島根県立大学の学生さんが自らコピーを考えた 6 地元ミュージシャンの手によって開発された「カスケーター」。ギターの独特な音色を出すための演奏用アイテムで、クイーンのカスケーター、ブライアン・メイをはじめ多数の大物アーティストたちも愛用しているという 7 スマホから気軽に聴ける「radiko」で若い世代のリスナーが急増中 8 2022年から代表取締役を務める小村健実社長

開局時から受け継がれる
エフエム山陰の想い

「家事をしながら」「車の運転をしながら」、ラジオは何かをしながら、手軽に音楽やニュースを聴くことができる便利なメディアだ。日々さまざまな情報やエンターテインメントを発信してくれるラジオ局は全国各地にあり、その一つが松江市に本拠地を置く《株式会社エフエム山陰》である。局があるのは「くにびきメッセ」の2階。開放的なオフィスの奥にラジオスタジオがあり、そこで日々番組の放送や収録が行われている。同局は、山陰両県を放送対象地域とするラジオ局として1986年、民放FM局としては全国で22番目に開局。コールサインはJOVU・FM、「V-air」の愛称で長年親しまれている。

開局時から松江市殿町のビルに置かれていた局舎は、2020年に現在の場所に移転。放送機器の更新に加えて、新しい番組編成や組織改革への取り組みを行い、「オープン・ラジオ・ステーション」という新スローガンとともに新たなフェーズへ移行した。「スローガンのとおり、開かれたラジオ局」が目標です。多くの方に局のことを知ってもらい、利用してもらうことにより、エフエ

ム山陰の関係人口を増やし、地域活性につなげていきたい」。そう話すのは2022年から代表取締役を務める小村健実社長。そこには、地域に寄り添い、地域に貢献できるラジオ局でありたいという、開局時から変わらない理念が受け継がれている。

放送エリアの壁を無くした
ラジオの無限の可能性

近年、ラジオは携帯ラジオから「radiko」をはじめとしたアプリへと進化を遂げ、Z世代を中心に盛り上がりを見せている。radikoの月間ユーザー数は現在約900万人、今やラジオは時間や場所、放送エリアにとらわれず、スマートフォンで好きな時に聴取できるメディアである。若年層においては、好きな芸能人が出演する番組を聴く「推し活」としての動向もみられ、昨年10月から同局でスタートさせた日向坂46の平尾帆夏さん（鳥取県出身）のレギュラー放送では、全国規模でリスナー数が増加している。「こうした現象は以前は考えられなかったこと。山陰出身の有名人やアーティストは、地元ならではのコンテンツが作れる強みがあるので、今後独自のプログラムを全国に発信していきたい」と、小村社長もラジオの新時代に期待を寄せる。



株式会社 エフエム山陰

事業内容

島根・鳥取 山陰両県をサービスエリアとする
圏域FMラジオ放送

創業 昭和61(1986)年2月5日

代表者 代表取締役社長 小村 健実

社員数 16名(男12名 女4名)

本社 島根県松江市学園南1-2-1

くにびきメッセ西棟2階

電話 0852-27-5111

採用エリア(勤務地)

松江市、鳥取市、東京都

採用区分

新卒採用

キャリア採用

採用担当者からあなたへ

音声コンテンツとデジタル
ツールが融合した新ビジネス
が続々誕生!山陰の情報
発信に携わりたい方を大募集。
好奇心とユニークなアイ
デアと一緒にラジオの未来
を切り拓きませんか?あなた
のご応募お待ちしております!



営業推進局総務部長
小田 慎也さん

資料請求・お問い合わせ先

採用直通 TEL

0852-27-5111

採用直通 E-mail

saiyou@fm-sanin.co.jp

公式サイトは
こちら



1 TOKYO FMなどの番組で山陰の情報を発信することもあり、東京支社は番組制作にも立ち会い、首都圏で営業活動や、本社との橋渡しの役割を担っている 2 関連イベントでは、司会だけでなく、設営や運営の役割など、イベントのトータルプロデュースの役割を担う

面白いだけじゃない
ライフラインとしてのFM

同局はTOKYO FMをキース
テーションにした「ジャパンエフエ
ムネットワーク」に加盟し、全国ネ
ットの番組、地元制作番組など多彩
なコンテンツを発信している。その
一方でBSラジオと協力し、山陰
面県の全市町村と「災害情報発信協
定」を締結、防災意識を高めるため
のキャンペーンを展開する。エンタ
メ中心のラジオではなく、重要なラ
イフラインの一つとして、的確な情
報の伝達で、地域の安心安全な暮ら
しを守るのも地方局の使命と小村社
長。「地域活性化において他社との
垣根は無い。テレビ局やケーブルテ
レビ、新聞社なども手を取り合っ
て、一緒に地域を盛り上げていこ

うみ」という思いでやっています」
同局には、「制作部門」「事業部
門」「営業部門」「技術部門」が置か
れ、各部門が連携して番組やイベン
トを作り上げていく。近年はネット
やSNSなどを活用した要望も多く
なり、幅広い知識と柔軟かつ迅速な
対応力が求められる場面が多くなっ
た。しかし各部署に求められるもの
は、それだけでなく、創造力や発想
力、そして愛や気づき、など、オー
プンマインドな人間力だ。「人や地域
の、楽しい」を創造することが僕ら
の仕事。自分たちの仕掛けによって
誰かが笑顔になる瞬間が、この仕事
の醍醐味です」と力を込める小村社
長。放送するだけのラジオ局ではな
い、地域の人が楽しく、そして安心
して暮らせるためのインフラづくり
を、本気で考える会社がここにある。

エフエム山陰で輝く先輩たち

自分が発信する言葉に責任を持てるように

故郷山形の高校を卒業後、島根県内の大学に進学。エフエム山陰でADのアルバイトをしたことをきっかけに、大学卒業後に入社した。1年目から冠番組を持ち、現在は4時間半に及ぶ生番組、「板花と一やさんのFRIDAY×FRIDAY」をはじめ多くの番組を担当している。「大変だけど、達成感も大きい仕事。でもラジオの仕事をやればやるほど、言葉の重みを感じるように。自分の発信する言葉に責任を持たなければと、日々意識しています」現在はスタジオを飛び出し、地元のテレビ出演や司会業など、ラジオ以外の活動も忙しい毎日。そうした新しいフィールドで新たなご縁が広がっていくのが楽しいという板花さん、今後のさらなる活躍に注目したい。



放送事業局
板花 と一やさん
山形県出身



バンド活動をきっかけにラジオの世界へ

大学時代、同局主催のアマチュアバンドコンテストに出場し、グランプリを獲得。そのことを縁に、バンド解散後も番組ADとして制作に携わり、正式に入社することになった。現在は「田村奏のBe Lucky!」などの番組パーソナリティや、ディレクター業務などを主に行っている。「自分の好きなことを仕事にできて、やりたいことをやらせてもらえる会社。ライブを観に行くのも大切な仕事です」。番組制作のほか広報も担当し、公式サイトやSNSの更新も行う。局の認知度を高めるためにも、AuDeeやPodcastとの連動も充実させたいと語っている。「全国の音楽好きの人たちに、「FM山陰の番組は新しい情報が取れる」と言われるような番組を作るのが目標です」



放送事業局
田村 奏さん
島根県出身



地域で頑張る人を応援することが喜びに

2018年に東京から島根に移住。「高田リオンのGO-!EVENING!」など番組のパーソナリティをはじめ、番組やCMの企画・脚本・制作など、さまざまな業務を行っている。中でも地元アマチュアバンドを応援する番組には特に思い入れがある。自身もミュージシャンとして頂点を目指していた過去があり、「地域で頑張っている彼らを応援し、活躍してくれることが、自分自身の喜びになっています」と笑顔で語る。入社6年目となり、ラジオの発信力や影響力を肌で感じるようになってきたという高田さん。「リスナーからの声は、僕にとってガソリンのようなもの」。局を支え地域を盛り上げていくため、さらにワンステップ上のラジオマンを目指す。



放送事業局
高田 リオンさん
東京都出身



「人・モノ・こと」いろいろな出会いがある仕事

大阪の大学を卒業し、入社以来長きにわたりエフエム山陰を支えてきた全さん。広報とCM運行業務をメインに務めてきたが、2年前からは営業部の課長として外勤営業を行う。「お客様にとって何が必要かを考え、想像を形にしていこう。この仕事はどんな展開になるのかなって、毎回ワクワクしながらやっています」と笑顔。CMや番組の営業に留まらず、PodcastやSNSを利用した企業とのコラボ企画や、映画の上映会など仕事内容は多岐にわたり、「仕事だけど、遊びのような面白みもある」と楽しそうに語る。「人・モノ・こと、いろいろな出会いがある仕事。エフエム山陰の魅力は『やろうと思ったら何でもやれる』ところですよ!」



営業推進局 営業開発部
全 瑛順さん
鳥取県出身

